「○○○題材名（タイトル）○○○」

（内容名）を実践して

○○市　技術・家庭科研究会

※学習指導要領解説のｐ65学習過程の参考例の流れに沿って章立てしてください。

１　はじめに（「昨年度実施内容」か「今年度実施内容」かを明記）

　本校（本市）においては，「○○○○」という生徒の実態がある。そのため，本題材では，「○○○○」の生活の営みに係る見方・考え方を働かせ「○○○○」という資質・能力（「何ができるようになるか」）を育てたいと考えた。

２　問題発見・課題設定について

　生徒が家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだせる工夫として，○○○○を用いて問題解決の工夫について考える学習を行った。そして，生徒に生活や社会の中から問題を見いだすために○○○○の資料を提示した。生徒は，「○○○○」という問題点を見いだした。その問題を解決するために，「○○○○」「○○○○」「○○○○」という課題を設定した。※問題を見いだすために，教師がどのような手立て（例えば，見本を準備，新聞記事などの資料を準備，映像や写真を準備等）をしたのか，詳しく明記してください。

３　解決方法の検討と計画

　※課題解決のために，生徒が見方・考え方を働かせて計画・検討ができるように工夫した手立てを詳しく明記ください。例えば，実物を見て製作のイメージをもたせる，仮想家族で条件を考える，グループやジグソー学習で調べたり，調査したりして考えをまとめ，他の意見を参考に検討する等。）

４　課題解決に向けた実践活動

　※「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についても触れる。例えば，ワークシートの工夫やOPPシート，授業の目標や流れの提示，段階見本や資料の提示，ホワイトボードの活用，タブレット端末などICT機器の活用，実習や体験活動など。

５　実践活動の評価・改善

実習後，これまでの学習を振り返り，○○計画の評価・改善の授業を行った。授業では，「○○○○」として，生徒自身の「○○○○」から成果と新たな課題を考えた。自分の成果と新たな課題を他者と比較し考察することで，○○○○について考えることができた。また，○○○○により，次の学習への意欲を高めることができ，主体的に学習に取り組む姿が見られた。

６　成果と課題

**（記入例）昨年度の発表：乾先生の原稿をもとにしました。**

「生活を豊かに！わたしだけのオリジナル手提げバッグを作ろう！」

（Ｂ　衣食住の生活）を実践して

○○市　技術・家庭科研究会

１　はじめに（昨年度実施内容）

　本校においては，ミシン縫いの基本的な操作など，製作における技能の習得に課題があり，バッグなどの布製品が壊れても直す方法が分からず，新しい物を購入するという傾向があることが分かった。そのため，本題材では，「快適・安全」,「持続可能な社会の構築」等の生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする資質・能力を育成したいと考えた。

２　問題発見・課題設定について

　生徒が家族・家庭や地域において生活の中から問題を見いだせる工夫として，教師の製作したバッグを数種類見本として提示し，生活の中の課題をより具体的に考えられるようにした。ある生徒は，「小学校の時に製作したバッグは，持ち手を丈夫に縫い付けていなかったので外れた」という問題点を見いだした。その問題点を解決するために，「長く使えるよう丈夫なバッグを作る」という課題を設定した。そして，生徒が発見した課題をもとに，題材全体の課題を「オリジナル手提げバッグの製作を通して生活をより豊かにしよう」と設定した。

３　解決方法の検討と計画

　生徒が見方・考え方を働かせて計画や検討ができるように，前年度の生徒が製作した作品やワークシートの写真を示した。製作者の思いやアイディアを読み取り，まとまったアイディアは生徒同士で意見交換をし，考えが深まるよう学習形態を工夫した。また，数種類の布見本を準備し，課題に合うよう強度，デザイン，価格等の面から適切な布の選択について考えさせた。さらに，布製品を再利用する方法を紹介し，資源や環境に配慮することの大切さに気付かせた。

　「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫として，ポケットの種類による縫い方の違いや特徴についての理解を深めるために，ジグソー学習による調べ学習を取り入れた。エキスパート班で，見本を見たり試作したりすることで，製作の手順や仕組みの理解を深めた。さらに，バッグ製作の手順を把握するためのワークシートと学習内容や自己評価を記録するポートフォリオを作成した。このような，一連の授業の流れの中で，生徒は見通しをもち，学習内容を振りながら主体的な製作に取り組むことができた。

４　解決方法に向けた実践活動

　製作時に，ミシンの使い方ヒントカードを提示し，基礎的な技能の定着を図るとともに安全に作業が進められるようにした。使うミシン糸の色によりペアを組み，教え合いをすることで，丈夫に縫う方法等についてさらに考えを深めることができた。また，段階見本と製作方法を提示した上に，製作工程ごとに生徒が製作している作品を展示したり，生徒同士のアドバイスを提示したりした。これらを参考にすることで，最後まで粘り強く取り組むことができた。

５　実践活動の評価・改善

　製作終了後、実践発表会を行った。友達の作品のよさや工夫点を知ることで，機能性や使いやすさなどの「快適」や資源や環境に配慮する等の「持続可能な社会の構築」の見方・考え方に気付き，生活を豊かにするための新たな課題を見付けることにつながった。また，学んだことを振り返り，ワークシートにまとめた。

６　成果と課題

　解決方法の検討と計画に十分な時間を確保することで，主体的に製作に取り組むことができた。また，生活の自立に必要な基礎的な知識を得るとともに，ミシンの取扱いやまつり縫いをはじめとする様々な技能を習得することができた。

　今後は，小中の内容の系統性を踏まえて3年間の指導計画を見直し，生徒がさらに見方・考え方を働かせ，よりよい生活を営むために工夫し，学習課題を家庭や地域で実践しようとする力を育めるよう授業改善を図りたい。